

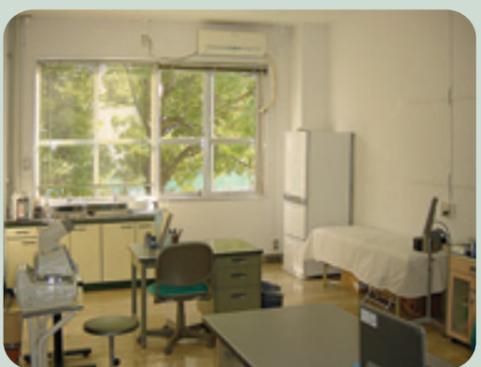
■阿南市 「阿南市」 タウンミーティング」開催

9月17日、徳島県阿南市において、徳島大学と徳島地域連携協議会(県、県教育委員会、市町村会)で組織)は、阿南市と徳島県の共催を得て、「地域防災 まちづくり ひとつくり」をメインテーマにタウンミーティングを開催しました。



タウンミーティングの開催は、昨年の協町に引き続き2回目となります。

当日は、約3000人の参加者があり、黒田副学長及び岩浅阿南市長の挨拶の後、川口三重大学大学院助教授から「防災教育 大学と地域の連携」をテーマとした講演、岡部環境防災センター長から「徳島大学における地域防災の取り組み」についての報告、パネルディスカッション等が行われました。



保健管理センター蔵本地区区分室開設

9月より蔵本会館2階に保健管理センター蔵本地区区分室が開設されました。開室時間は月火木金の13時から16時までで、看護師が常駐しており、開室時間中は病状の相談と投薬、および軽い怪我の処置が受けられます。また、血圧計、身長体重計、視力計も設置しており、健康管理にも利用でき、体調の悪くときはベッドで休むこともできます。

川口助教授、岡部センター長に加え、石本徳島県南海地震対策課主任と南海地震の津波を体験された市民の岡部氏がパネラーとなり、それぞれの立場から近い将来起こりうる南海地震への備え等について貴重な意見が述べられました。また、最後に会場の参加者を変えて意見交換や質疑応答が行われました。

■エンジニアリング フェスティバル2005開催



工学部工学研究科では、本年度5回目となる「エンジニアリングフェスティバル2005」を9月30日(金)に知的財産本部との共催で開催しました。

当フェスティバルは、工学部・大学院工学研究科等における研究成果を広く地域の人々に公開し、地域における科学技術の振興の一助となることを目的とするとともに、本学部の研究活動の情報公開や研究内容の説明責任、企業の方からの共同研究のシーズの提案なども視野に入れて実施しています。

内容は、「工学部研究プロジェクト成果」、「工学部・大学院工学研究科の研究成果」等29件の研究成果のポスター展示及び担当教員による概要説明で、400人を超える参加がありました。

参加した企業の方からは、「学術関係者との連携を強化することは、企業の活性化に非常に有用である。」「興味深い研究が多く、参考になった。」等の意見がありました。

■「e-Learningセンター」設置

10月1日よりe-Learningセンターが設置されました。本センターは、e-Learningを包含したe-Learningの推進母体として、全学での役割を目指します。

現在、常三島地区を中心に

展開しており、高度情報化基盤センター、大学開放実践センターを始め、蔵本キャンパスでのe-Lear-

ning等とも連携しながら進めていきます。センターの活動は主に以下の通りです。

1 学生へのサービスの向上

- (1)ポータルサイトの提供(高度情報化基盤センターと協働)
- (2)PDA、携帯電話等を用いたe-Learningの提供(当該部局と協働)
- (3)コンピュータを用いたe-Learningの提供(高度情報化基盤センターと協働)
- (4)履修登録システムの提供(高度情報化基盤センターと協働)
- (5)上記のシステムと関連するシステムとの連携(各センターと協働)

2 教育研究活動の効率化

- (1)EDBの拡充と内容の充実(EDB開発グループと協働)
- (2)無線LAN(Hot Spot)の設置(当該部局と協働)

3 経費の効率的な活用

- (1)授業評価などのWebアンケートシステムの提供(当該部局と協働)
- (2)電子会議システムの提供(当該部局と協働)

■学生の保護者代表と 学長との懇談会開催

11月2日(水)、常三島キャンパス 共通講義棟大会議室で「学生の保護者代表と学長との懇談会」を開催しました。

この懇談会は今回で7回目となるもので、各学部生の保護者代表13名と青野学長、川上副学長、黒田副学長、中村副学長及び各学部長等が出席しました。

青野学長から徳島大学の現状について、黒田副学長から地域連携について説明があった後、事前に寄せられた保護者からの意見・質問に対し、川上副学長、各学部長等から詳細な回答・説明がなされました。

保護者からは、就職状況、来年度より開始される歯科医師臨床研修制度及び薬学教育体制、学生の大学運営への参加を促進する取り組み、産学連携体制等について意見・質問が出され、徳島大学の教育、研究、社会貢献への取り組みの関心の高さを再確認させられる懇談会となりました。

■第53回徳島大学祭開催

11月3日(木)～5日(土)までの3日間の日程で、第53回徳島大学祭が開催されました。

今年の常三島祭テーマ「絆」は、何か一つ大きなことを成し遂げようとするとき、一人の力は実に弱いもので、時には悩み苦しむときもあるが、仲間との絆を感じること、どんな困難も乗り越えられるとの思いが、また、蔵本祭テーマ「ぶつちぎり」には、自分がすべきことや、自分に合ったもの、そして自分のやりたいこと...



そういった見えない方位磁針を手が、がむしやりに突き進む。そうすれば、今まで見えなかった新しい世界が、と目の前に広がってくる。その思いが、それぞれ込められていました。

主な企画の入場者概数は、常三島祭では、「大杉連トク&ライブ」が400人、「アンダーグラウンド・ペシヤルライブ」が450人、「SOULFUL URULIVES in 2005」が180人、ファイヤーストームが100人、大学開放実践センター企画が120人、学生相談室企画が120人で、3日間の総入場者数は約6,000人でした。

また、蔵本祭では、「YU-CONサークル」が520人、「今年も吉本がくる」が450人、「解剖病理展」が320人、「歯科検診」が100人、「栄養展」が500人で、3日間の総入場者数は約10,000人でした。

初日昼頃、時雨が降りましたが、2日目・3日目ともに晴天に恵まれ、実行委員の頑張りもあって3日間とも各企画は予定どおり実施でき、入場者も昨年よりかなり多く成功裡に終わりました。

■次期学長に 青野現学長を再任



11月21日、法人化後、初の学長選考会議を開催し、次期学長候補者に青野現学長を選出しました。



また、学術情報の交換、教員及び技術職員の交流、研究施設・設備の共同利用等が予定されており、今後、具体的な計画を詰めることとなっています。

青野敏博現学長を選出しました。同日午後開かれた記者会見で、学長は、2期目にあたり、学部・大学院の改組、運営費交付金の漸減と対応策、事務改善に向けて計画、施設整備の充実、教員業績評価、処遇制度の定着化等について抱負を述べました。

任期は、平成18年1月10日から平成22年1月9日までの4年間で、12月上旬に文部科学省へ任命の手続を行い、平成18年1月10日文部科学大臣から正式に発令される予定です。

■徳島大学工学部と 阿南工業高等専門学校が 教育・研究交流協定を締結

徳島大学工学部は、阿南工業高等専門学校と相互に連携し、教育・研究等の交流と協力を推進することにより、それぞれの教育・研究の充実を図り、さらには地域社会に貢献することを目的とした「教育・研究に関する協定」を締結しました。

11月22日に徳島大学工学部で行われた調印式には、徳大工学部から、矢野米雄工学部長、近藤光男副学部長、河村保彦教務委員会委員長が、また、阿南高専からは、米山宏校長、森住昇教務主任が出席し、協定書を取り交わしました。協定締結により、両校の履修単位を相互に認定する単位互換制度や共同研究の進展が期待されます。

なお、より専門性の高い授業を大学で受けることができるようになった阿南高専では、学生4人が早速、この単位互換制度を利用し、12月から同大の「電子デバイス工学」、「機械電子材料学」といった授業科目を履修する予定です。

徳島大学地域・国際交流プラザ(日亜会館)の ギャラリー名称決定

71件の応募があり、選考の結果「ガレリア新蔵」に決定しました。受賞者は次のとおりです。

★最優秀賞

工学部電気電子工学科
伊坂 勝生さん
「ガレリア新蔵」

★優秀賞

総合科学部自然システム学科4年
金田 愛衣美さん
「COMCOMギャラリー」

★優秀賞

大学院工学研究科エレクトロニクス工学
渡辺 公次郎さん
「T-MOS」